
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 355 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.07.18 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,085 部*****

【山崎記念農業賞表彰式・総会記念講演のご案内】

◎日時：2013年7月27日(土) 14:00~17:00

◎場所：NTC インターナショナル(株) 5F 会議室

東京都新宿区四谷3-5 不動産会館ビル 5F

東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅下車

A3 出口より四谷方面へ 50m

コンビニ「サンクス」隣

◎山崎記念農業賞 表彰式……14:00~15:00

長野県辰野町 倉澤久人氏(オンワード倉澤)

表彰理由=地域の小さな水を生かす超小水力発電機の開発及び普及への貢献

[参考 URL]

NPO 法人・信州松本アルプスの風

中川ピコ水力発電所 資料

<http://www.smak.jp/imgdir/1250290754.pdf>

◎総会記念講演：「電力需要に応える再生可能エネルギー」……15:00~17:00

1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

……渡辺 博氏(山崎農業研究所幹事)

2) ここまで進んだ小水力発電

……新谷和男氏(NTC コンサルタンツ・小水力発電グループ代表)

※参加費：500 円(資料代等) 懇親会費：4,000 円

※お手数ですが、資料準備の関係がございますので、参加希望者は下記問い合わせ先に事前にご連絡下さい。会員外の皆さんの参加も歓迎します。

※問い合わせ先

TEL.03-3357-5916 FAX.03-3357-3660 (NTC コンサルタンツ・益永)

e-Mail: y.masunaga@ntc-c.co.jp

□ 目 次 □-----

<巻頭言> TPPの「不都合な真実」を暴き続けよう 渡邊 博

<山崎農業研究所 第145回定例研究会 速報(要旨)>

テーマ: TPP交渉参加を問う—選択肢はTPPだけか?

2. ラテンアメリカの「より良く生きる(vivil bien)運動」に学ぶ

……吉田太郎氏(キューバ農業評論家)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

<編集後記>

「社会が変わる」でなく「自らの暮らしを変える」ために

——長谷川浩著『食べものとエネルギーの自産自消

——3.11後の持続可能な生き方』(コモンズ刊)

<巻頭言> TPPの「不都合な真実」を暴き続けよう

ドイツナチスの国民啓蒙・宣伝大臣だったヨーゼフ・ゲッベルスは、「大きな嘘を何度も繰り返せば、最後に人々はその嘘を信じる……真実は国家の最大の敵である」と語ったことは有名な逸話である。

TPP交渉は密室で行われ、そこで話された本当の内容は公式の場ではなかなか表に出てこない。第17回TPP交渉会合(ペルー5月15?24日)のステークホルダー向けの説明会によると、アメリカ代表は「公衆の面前ではできないことを、貿易協定を通して静かにやろうとしている」、カナダ代表は「確実なのは、日本が加盟する時に交渉がどこまで進んでいるかに関わらず、日本はそれを受け入れるということだ」と言っているそうだ(「STOP TPP!! 市民アクション」のブログから引用)。

大手マスメディアの世論調査では、TPP参加表明を支持するという意見が5割から8割だという。大きくばらついているのも疑問だが、少なくとも反対より賛成の方が大きく上回っている。FTAにしてもTPPにしても、どの国の政府も自国民に真実を伝えない。それが国民にとってあまりにも「不都合な真実」だからである。一方で、マスメディアや怪しげな「評論家」、「文化人」を総動員してTPP歓迎を囃し立て、国民啓蒙に力を注いでいる。

長引く不況や経済力の低下から、なんとなく自信を失いかけている中で、日

本人は TPP サークルに参加しないことによる疎外感に陥りやすい心理状況にある。そこにゲッベルス流の宣伝がつけ込むのである。嘘を百回言えば本当になる。であるならば、我々もその何倍も TPP の不都合な真実を暴き続けよう。相手が嘘八百を言い続けるなら、我々は真実八百を並べ立てよう。それが TPP に反対する者の責務でもあるはずだ。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 第 145 回定例研究会 速報 (要旨) >

テーマ：TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか？

期 日：2013 年 6 月 8 日 (土)

場 所：NTC インターナショナル 5F 会議室

1. TPP の本質を読む—韓米 FTA を踏まえて

……金 哲洙氏 (日本農業新聞記者)

2. ラテンアメリカの「より良く生きる (vivil bien) 運動」に学ぶ

……吉田太郎氏 (キューバ農業評論家)

2. ラテンアメリカの「より良く生きる (vivil bien) 運動」に学ぶ

……吉田太郎氏 (キューバ農業評論家)

ビビルビエン (vivil bien) とは脱成長主義で、よりよき生活を送ると言う意味である。多くの原発を持つ国の輝く国の夜景を見て、次にキューバの夜景を見ると、その夜景の暗さに驚く。キューバを含め、ALBA 協定 (*) のもとでラテンアメリカの多くは TPP にあらず、PTT (People's Trade Treaty) を進めている。PTT は地域の持続的発展、伝統文化を尊重して、相互の豊かな生活 (より良く生きる (vivil bien) 運動) を自由な貿易を通しての支援が目的である。ジョンラスキン (1819~1900) などが提唱しているように、人生の価値は芸術的創造にあり、必ずしも資本や労働の関係ではないと主張した。このような思想の実現がラテンアメリカで進んでいる。

「人間の幸せ」から見ると、農業をする傍ら、半分の余力は他の分野に向けて生活する生き方が大切である。80 年代には日本にもこのような考えがあった。風車、有機農業、自然食、田舎暮らしという自然主義が人気があった。経済

成長しなくても、人間としての質の高い生活が出来る。芸術を生活の中に取り入れることなどが考えられる。人間の生活にとっては、経済発展は本質でなく、幸せを求める単なる手段にすぎない。わが国では玉野井芳郎（1918～1985）がこのような考えに関心を示している。

インカはスペインによって金銀、チリ硝石を奪われたが、これらは硝石は爆薬、また肥料の原料でもある。このような略奪が資本主義や、社会主義の思想の発端をとらせたと思われる。これ以後、世界にはさまざまな社会変化が起こった。だが、資本主義型の米国型社会は人を幸せにしたか？ また、ソ連型社会主義はどうか？ の疑問が生じた。これらとは別に「脱成長」と言う考えがある。社会は、勃興→成長→保守→没落→創造的破壊→新しい社会の再生、と変化する。その中で、大量生産、大量消費を戒めた、小さい社会を美しく育てるという、シューマッハ（1911～1977）の考えもある。ラテンアメリカでは小泉経済改革のような改革をした国がある（メキシコ）。GDPは上昇したが、食料自給率低下した。そして農民は生活できなくなった。多国籍企業が若者を低賃金で酷使した。貧富の差が著しく広がった。このような経済改革が多くの市民を苦しめた。その結果、左翼化した。

キューバではソ連時代に原発建設を計画した。しかし、その弊害に気付いたカストロは脱成長宣言をした。コロンビア国では食料自給率の向上を重視し、小規模農家を守った。ベネズエラのチャベスはPTT（People's Trade Treaty）を提唱した。ボリビアではモラレスはキューバの進めている有機農業は将来の農業生産の主流となろうと言う。さらに遺伝子組み換えしない権利など、多くの革命的な「脱成長」の原則を提案している。PTT（People's Trade Treaty）によって社会や文明はやがて変化するであろう。そして新しい有機農業社会としてのアグロエコロジーを基にした「より良く生きる（vivil bien）」の活動が今、注目されている。

（*）ALBA 協定：反資本主義の人民貿易協定でラテンアメリカの多くの国が参加している。

（文責 安富・田口）

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.129』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.129』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

TPP は食の安全を破壊する？◎野口 勲

〔第 38 回研究所総会・第 36 回山崎記念農業賞〕

総会挨拶◎安富六郎

第 36 回山崎記念農業賞贈呈式（NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク）

〔選考委員報告〕◎田口 均

〔お礼の言葉〕◎渡部よしの

〔受賞にあたって〕有機農業が拓く持続可能な地域づくり◎菅野正寿

〔お祝いの言葉〕◎高橋久夫

〔総会記念フォーラム〕福島県有機農業ネットワークの皆さんを囲んで

(1)3.11 を文明の転換点に◎長谷川 浩

(2)放射能汚染の中での農の営み、この 1 年

——ネットワークの仲間を支えられて◎渡部よしの

(3)つなぐ・結ぶ・創る——生産と消費、現場と研究◎大江正章

〔特別寄稿〕

自然栽培を追いかけて◎元田裕次

「坂の上の雲」から「崖の上のポニョ」へ◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から〈1〉

「生きもの語り」は科学への違和感から生まれた／宇根 豊

<編集後記>

「社会が変わる」でなく「自らの暮らしを変える」ために

——長谷川浩著『食べものとエネルギーの自産自消

——3.11 後の持続可能な生き方』（コモンズ刊）

昨年 7 月、福島県有機農業ネットワークが山崎記念農業賞を表彰された際、理事である長谷川さんから懇親会の場でこう言われたのをよく覚えている。

「首相官邸前デモが盛んですが、もっと大事なのは具体的に変わっていく道筋を示すことではないでしょうか」と。その長谷川さんが本を出された。

ピークオイル、気候変動、食料危機が迫るなか、「人を幸福で健康にし、そして社会を持続的にする行動」をとよびかける。ポイントは4つ。

1. 足るを知り、不便さを引き受ける。
2. 農林水産業を基盤に、自然に寄り添って生きる。
3. 大自然の脅威の前では、人は微力な存在である。一人では生きていけないから、地域共同体の中で暮らす知恵を身につける。
4. 長期的な視点をもって、自発的・内発的に行動する。

3.11 はわたしたちにとって何が大切かをあらためて認識させた。それは安全な食べものと水と空気、そして（一定の）エネルギーである。

本書で長谷川さんは「米・麦・大豆・いも類の自給」、「家畜の飼い方」、「エネルギーの自給」などの手法を紹介する。いずれも生きることの土台であり出発点となる。先にあげた4つのポイントは、ほんの数十年前までのこの国のほとんどの人間の生き方であったともいえるし、田畑を自ら耕し、家畜を飼い、薪炭もふくめてエネルギーを自給する、そんな生き方も当たり前のものとしてあった。

昨年夏「具体的に変わっていく道筋を示す」ことが大事と言った長谷川さん。その実践がここにある。今週末は参議院選、政治もちろん大事だ。だが、自らの暮らしを変えることも同じくらい、いやそれ以上に大切だろう。暮らしを変える、そして社会を変える主体は私たちなのだから。

長谷川浩著

『食べものとエネルギーの自産自消

——3.11 後の持続可能な生き方』

コモンズ刊、四六判、168 ページ

本体価：1800 円＋税

発行日：2013 年 3 月

ISBN-13: 978-4-86187-101-6

<目次より>

第 I 部 ピークオイルと食料危機がやってくる

○最後の石油ショック

○地球規模の気候変動

○最大の難題＝食料危機

第 II 部 21 世紀の持続可能な生き方

○有機農業の原理

○米・麦・大豆・いも類の自給

○家畜の飼い方

○地域資源の活用

○エネルギーの自給

○農地・里山の再生

○地域で自然に寄り添って生きる

2013 年 07 月 18 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 356号の締め切りは07月29日、発行は08月01日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第355号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.07.18（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****